

Title	福澤諭吉第二回渡米日記
Sub Title	
Author	河北, 展生(Kawakita, Nobuo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1950
Jtitle	史学 Vol.24, No.2/3 (1950. 10) ,p.158(290)- 158(290)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白録 福澤諭吉五十年忌記念
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19501000-0158

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

大河内正敏氏も在舎されたときくが、學校の帳簿に記載がない。在舎したことの明らかにして漏れてゐる實例は他にもあるから、大河内氏の在舎も確かであらう。

昭和十六年より約二年間、幼稚舎の創立者和田義郎先生の後嗣和田駿氏の好意に依つて、幼稚舎々史關係の史料を蒐集した。本篇は、その史料に基いて執筆したものである。未だ史料が不充分であり、又、取急ぎ執筆した爲に、甚だ不完全なものである。幸に當時の幼稚舎の卒業生の目に觸れて叱正の榮を得られたら幸である。

福澤諭吉第二回渡米日記

福澤新資料中に、軍艦購入の爲再度渡米した時の小型日記帳一冊がある。これは長邊一五・八、短邊八釐の横に長い手張で、表紙は溢柿色で、綴部を上に、右肩に慶應三年、中央に日記、左肩に丁卯正月、左下に福澤氏と墨書されて居る。手帳の中味は、袋縫にした和紙に木板を以て、各頁を五行に分ち、一頁五目分とし、一日分を更に上半部に二本の罫を引き三行に分ち、初行に日付が印行され、三丁六頁を以て一ヶ月を構成して居る。此の印刷せる紙數三九丁十三月分の後に、白紙十丁が附されて居る。これはいはゞ現今行はれる懷中日記と云つたもので、これに筆及鉛筆にて興味深い記載がなされて居る。表紙裏面には白堊館の見取圖と、慶應二年十一月十二日に米國行の幕命を受けた事が墨書されて居る。日記はいづれも墨書で、正月十七日江戸出發に始り、六月二十六日横濱歸着を以て終る。此間の動行の概略及び第二回目紐育滯在中の記事は拙稿に引用して居る。日記の部に於て興味ある二三の記事を拾う

に、二月十八日咸臨丸渡米時桑港にて客死せる水夫源之助富藏の墓参を行ふ（後年自傳にて記憶せずと云ふ）三月廿一日紐育にて、爲替金等之事に付多事（自傳に記す）同月二十八日ワシントンにて、インデペンドントの檄文草稿を見る。四月朔日大統領え拜謁、同月二十六日コロンビヤスクールえ行等とある。裏側よりの記入は、白紙十枚を越え、木板印刷部に及んで居る。猶十三ヶ月目の初め二枚が切取られて居る。裏表紙内面に鉛筆書にて *Swift's first Lessons on Natural philosophy*、窮理初步（窮理圖解の参考書名）裏二枚目に横濱着之節の献立が記入されて居る。なか／＼の御馳走である。五枚目裏より六枚目裏に、一八六七年三月二十六日付桑港開港新聞の陸軍にて日本人を待遇の事と云ふ一條を譯して居る。六枚目裏より八枚目裏に、米學校制度の記事及小學校見學のメモが鉛筆書されて居るが、滯歐手帳のそれの如く、教員學生の數字等については、實に詳細に注意して細々と記されて居る。この日記は、簡単ではあるが、滯歐手帳と並んで福澤洋行の貴重な資料である。